

【知識及び技能】

①言葉の特徴や使い方に関する事項

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	小学校第1,2学年	中学部2段階	高等部1段階	小学校第3,4学年	高等部2段階	小学校第5,6学年
言葉の働き	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	ア 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	ア 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	ア 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	ア 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
話し言葉と書き言葉	(イ)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。 (ウ)日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。 (ウ)日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	イ 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。 ウ 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	イ 発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。 ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話すこと。 ウ 漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。	イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。	イ 話し言葉と書き言葉の違いがあることに気付くこと。 ウ 文や文章の中で漢字と仮名を使い分けて書くこと。	イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。
漢字				※漢字については「表現したり理解したりするために必要な語句」と限定的になっている。	エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	※漢字については「表現したり理解したりするために必要な語句」と限定的になっている。	※漢字については「表現したり理解したりするために必要な語句」と限定的になっている。	エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	※漢字については「表現したり理解したりするために必要な語句」と限定的になっている。	エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

語彙	(イ)言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	(ウ)身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	(エ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	エ 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	エ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	エ 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には、性質や役割による語句のまとまりがあることを理解すること。	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	エ 表現したり理解したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすること。	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
文や文章			(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	オ 主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。	カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。	オ 修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	オ 接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	オ 文と文との接続の関係、話や文章の構成や種類について理解すること。	カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。
言葉遣い				カ 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。	カ 敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	カ 日常よく使われる敬語を理解し使うこと。	キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	カ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。	キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
表現の技法										ク 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。
音読、朗読			(カ)正しい姿勢で音読すること。	キ 語のまとまりに気を付けて音読すること。	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	キ 内容の大体を意識しながら音読すること。	キ 文章の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	キ 文章を音読したり、朗読したりすること。	ケ 文章を音読したり朗読したりすること。

②情報の扱い方に関する事項

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	小学校第1,2学年	中学部2段階	高等部1段階	小学校第3,4学年	高等部2段階	小学校第5,6学年
情報と情報との関係			(ア)物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	(ア)事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	(ア)考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など、情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理			(イ)図書を用いた調べ方を理解し使うこと。			(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	イ 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方などを理解し使うこと。	イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

③我が国の言語文化に関する事項

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	小学校第1,2学年	中学部2段階	高等部1段階	小学校第3,4学年	高等部2段階	小学校第5,6学年
伝統的な言語文化	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。 (イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	(ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	(ア) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	(ア) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。	ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉の遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	ア 生活に身近なことわざや慣用句などを知り、使うこと。	ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	ア 親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 生活の中で使われる慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
言葉の由来や変化								ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。		ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。
書写	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㊧ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㊧ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㊧ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	(ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ㊦ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㊧ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。	(ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ㊦ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㊧ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。		エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。	ウ 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ア 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くこと。 イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 (イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 (ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。
読書	(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	(エ) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	(エ) 読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	(エ) 読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。	(エ) 幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	ウ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	エ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。

A 話すこと・聞くこと

		小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	小学校第1,2学年	中学部2段階	高等部1段階	小学校第3,4学年	高等部2段階	小学校第5,6学年
話すこと	話題の設定・情報の収集	ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。	イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。	イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。	イ 目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	イ 目的や意図に応じて、話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
	構成の検討・考えの形成			ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。	イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。	ウ 話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	ウ 話の内容が明確になるように、話の構成を考えること。	イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。
	表現・共有		エ 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。	エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。	エ 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。	エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	エ 相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。	エ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
聞くこと	話題の設定・情報の収集					【再掲】 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。			【再掲】 ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。		【再掲】 ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
	構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有	ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。 イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。	ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。	ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。	エ 話し手が知らせたことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。	ア 身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。	ア 社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことの中心に注意して聞き、話の内容を捉えること。	エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。	ア 社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的や自分が聞きたいことの中心を捉え、その内容を捉えること。	エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。
話し合うこと	話題の設定、情報の収集、内容の検討					【再掲】 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。			【再掲】 ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。		【再掲】 ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
	考えの形成、共有			カ 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。	オ 相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。	オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。	オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

B 書くこと

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	小学校第1,2学年	中学部2段階	高等部1段階	小学校第3,4学年	高等部2段階	小学校第5,6学年
題材の設定、情報の収集、内容の検討	ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	ア 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	ア 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。	ア 見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、書くことを決め、集めた材料を比較するなど、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
構成の検討			イ 見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。	イ 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。	イ 書く内容の中心を決め、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
考えの形成、記述	イ 文字に興味をもち、書こうとすること。	イ 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。	ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。	ウ 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。	ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
推敲			エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。	エ 自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりすること。	エ 文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
共有			オ 文などに対して感じたことを伝えること。	オ 文章に対する感想をもち、伝え合うこと。	オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	オ 文章に対する感想を伝え合い、内容や表現のよいところを見付けること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	カ 文章全体の構成が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

C 読むこと

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	小学校第1,2学年	中学部2段階	高等部1段階	小学校第3,4学年	高等部2段階	小学校第5,6学年
構造と内容の把握	イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。	イ 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。 ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。	イ 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。	イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	イ 語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。	イ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ア 登場人物の行動や心情などについて、叙述を基に捉えること。	イ 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	イ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ア 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	イ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
精査解釈			ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。	ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	エ 中心となる語句や文を明確にしながらかくこと。 ア 様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。	エ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 ウ 登場人物の心情や情景について、場面と結び付けて具体的に想像すること。	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。 エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること。	エ 目的を意識して、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。 ウ 人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
考えの形成	エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	エ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。		オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。		オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
※特支持有	ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。	ウ 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。	ウ 日常生活で必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。	ウ 日常生活で必要な語句や文章などを読み、行動すること。		ウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。				
共有				エ 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	オ 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。		カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。		カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。